

令和 3年 5月 10 日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立鹿島小学校（外 11校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立鹿島小学校	<a href="http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/">http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/</a>	<a href="http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/">http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/</a>

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技の開催が予定されている。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力の世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

#### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部, 計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

#### (2) 実施状況に関する特記事項

#### (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

#### (1) 第1学年児童による評価

##### ① 外国語活動の時間は、楽しいですか。

楽しい	75.0%	どちらかという楽しい	21.9%
どちらかという楽しくない	3.1%	楽しくない	0%

##### ② ALTと英語で話したり活動したりするのは、楽しいですか。

楽しい	78.1%	どちらかという楽しい	21.9%
どちらかという楽しくない	0%	楽しくない	0%

##### ③ 英語を話せるようになりたいですか。

話せるようになりたい	75.0%
どちらかという話せるようになりたい	25.0%
どちらかという話せるようになりたくない	0%
話せるようになりたくない	0%

##### ④ 外国のことをもっと知りたいですか。

知りたい	75.0%	どちらかという知りたい	15.6%
どちらかという知りたくない	9.4%	知りたくない	0%

#### (2) 第2学年児童による評価

##### ① 外国語活動の時間は、楽しいですか。

楽しい	72.4%	どちらかという楽しい	27.6%
どちらかという楽しくない	0%	楽しくない	0%

##### ② ALTと英語で話したり活動したりするのは、楽しいですか。

楽しい	75.9%	どちらかという楽しい	22.4%
どちらかという楽しくない	1.7%	楽しくない	0%

##### ③ 英語を話せるようになりたいですか。

話せるようになりたい	84.5%
------------	-------

どちらかというと話せるようになりたい	12.1%
どちらかというと話せるようになりたくない	3.4%
話せるようになりたくない	0%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。

知りたい	67.2%	どちらかという知りたい	27.6%
どちらかという知りたい	5.2%	知りたくない	0%

(3) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか？

思う	53.9%	どちらかというと思う	44.4%
どちらかというと思わない	1.0%	思わない	1.0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか？

思う	69.0%	どちらかというと思う	29.3%
どちらかというと思わない	1.0%	思わない	1.0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	69.0%	どちらかというと思う	29.3%
どちらかというと思わない	1.0%	思わない	1.0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。(自由記述)

- ・楽しみながら活動できると、その先の学びに繋がったときに抵抗がないように思う。
- ・勉強というよりも、英語の授業を楽しんでできればいいと思う。
- ・英語圏に行った時に、最低限の会話ができること。
- ・外国人との交流。
- ・積極性, 外国語への抵抗感を無くすこと。
- ・ネイティブによる発音に触れること。
- ・さまざまな単語の習得。
- ・日常会話(あいさつ等)。
- ・日本語英語ではなく、実際使用して違和感のない英語の習得。
- ・英語に慣れること。
- ・外国の方と怯まずに話せるようになってほしい。
- ・英語を嫌いにならないこと。
- ・外国語を話す, 異文化に触れる事は楽しいことだという事を理解できること。
- ・外国語への興味, 関心。
- ・フォニックスの学習は, 大変素晴らしい取り組みだと感じています。しかし, まだALTのフォニックス学習への理解度の差があるのか, フォニックスを歌って終わりにしているので, もっとい

ないなと感じています。歌った上で、その日に扱うフォニックスの音を一音取り出してその単語をもう少し掘り下げてもいいかと思う。

娘が持ち帰ったプリントに、aのフォニックスの例としてapple, air, eのフォニックスの例としてelephant, egg, earがあり、どちらも音と文字の一致してないものがあり、(air, ear)ここのフォニックス学習の初期段階の子供にこれらをa, eの音として並べるのは違うかな？と少し疑問に思う部分があった。せつかくの素晴らしい鹿嶋の取り組みなので、フォニックス学習の進め方等をもう一度確認していただきたい。

- ・英語に興味を持ってもらえること。
- ・早くから始めた方が、外国人への苦手意識がつきにくいと思う。英語でのコミュニケーションが楽しいと感じられるようになれば良いな、と思います。
- ・ネイティブの発音をたくさん聞くこと。
- ・どんどん英語で話してみること。
- ・早い時期から英語にふれることで苦手意識が軽減すること。
- ・楽しくコミュニケーションすること。
- ・英語に対する不安や緊張が無くなればとよいと思う。
- ・会話力の育成。
- ・外国人に接することを怖がらないようになればいいと思う。
- ・英語の楽しさを学ぶこと。
- ・楽しくコミュニケーションすること。
- ・子供たちが楽しく英語にふれられる時間であれば良いと思う。
- ・ある程度の単語が書けるようになること。
- ・英語圏に行った時に、最低限の会話ができること。
- ・あいさつと自己紹介ができること。
- ・授業時間が少ないので効果があるようには思えませんが、帰宅して授業の復習をしている様子を見るとしないよりは興味を持っているとは思う。英語を身近に感じてくれることを期待している。
- ・楽しく学んで、外国語に対する抵抗をなくすこと。
- ・楽しんで英語を学んで欲しい。
- ・学びとは、程遠い！
- ・日常会話の習得につながればと期待する。
- ・興味がわく。
- ・英語に触れ合い、自然と英語を好きになってもらいたい。
- ・英語を通して表現やコミュニケーションが豊かになれたらいいなと思う。
- ・簡単な単語を覚えること。
- ・外国の方に対しての偏見の減少。海外でのコミュニケーション能力の向上。
- ・英語を自然に受け入れられる様になってほしい。
- ・英語力の向上。
- ・外国の文化などに触れ、知識や感性を磨くことができる。

- ・もっと授業時間を増やして欲しい。
- ・英語に慣れ, 楽しいと思えること。
- ・英語に対する不安や緊張が無くなればとよいと思う。
- ・英語を楽しく感じることに。
- ・ネイティブティーチャーとの交流で英語に関心を持ってもらう
- ・楽しさ 興味を広げること。
- ・英単語をたくさん覚えてほしい。簡単な会話を覚えてほしい。
- ・楽しんで行うこと。
- ・外国語に慣れ親しんで欲しい。
- ・外国語の時間はとても楽しいようなので言葉はもちろん楽しく色々なことを学んでほしい。

#### (4) 教職員による評価

- ① 第1学年からの外国語活動の実施は, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか?

思う	87.2%	どちらかというと思う	12.8%
どちらかというと思わない	0%	思わない	0%

- ② 第1学年からの外国語活動の実施は, 英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか?

思う	87.2%	どちらかというと思う	12.8%
どちらかというと思わない	0%	思わない	0%

- ③ 第1学年からの外国語活動の実施によって, 外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	69.0%	どちらかというと思う	29.3%
どちらかというと思わない	1.0%	思わない	1.0%

- ④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。(自由記述)

- ・3年以降の外国語活動に対して期待を持てるような, 面白い活動を期待する。
- ・グローバル時代に対応できる力。
- ・コミュニケーションの一つのツールとして, 苦手意識のないうちにどんどん英語に慣れ親しんでほしい。
- ・コミュニケーション能力の向上。
- ・英語に慣れ親しむこと。
- ・英語に対する恐怖心克服。
- ・英語の楽しさ, コミュニケーションの楽しさを体で知ること。
- ・英語は, コミュニケーションの手段であることを体験的に理解すること。  
音への慣れ親しみ。
- ・英語を楽しみ, 英語に対して抵抗感をもたないこと。
- ・英語を聞き取る力が育つ。
- ・英語を聞き取れる柔軟な耳を養うこと。日本以外の国や広い世界に興味関心をもつこと。

- ・英語を話すことに対して苦手意識をなくすこと。耳からどんどん音を取り込むのにいい時期なので、今後につながっていければと思う。
- ・外国の文化や正しいきれいな発音に触れること。
- ・外国語に興味をもたせること。
- ・外国語に触れることや触れることで楽しむこと。
- ・外国語を使うことが楽しいと感じる活動であることを期待します。
- ・外国語活動の学習の定着がよりよくなること。
- ・外国語活動の授業の楽しさを学ぶ。外国に興味をもつこと。
- ・楽しく外国語に親しむこと。
- ・苦手意識をもたないように取り組めること。
- ・自己表現能力の向上。
- ・小さいうちから外国語に慣れ親しむことで、外国語に耳が慣れて、自然に外国語でのコミュニケーションの力が身につくと思う。
- ・色々な文化に幼い頃からふれることにより寛容な態度を養う。
- ・世界の人たちと進んで交流できる基礎づくり。

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校組織目標として「表現力の向上」を掲げ、全教科で児童の思いや考えを引き出し、主体的・対話的な学びのある授業を推進してきた。低学年の外国語活動においても、児童にとって身近なトピックである食べ物・スポーツ・色・動物・数字などを扱い、英語を使って積極的に自己表現をする児童の育成に取り組んできた。その結果、外国語活動の時間を楽しい(どちらかという楽しいを含む)と感じている児童は、1年生では、96.9%、2年生では、100%となった。また、英語を話せるようになりたい(どちらかという話せるようになりたいを含む)と思っている児童は、1年生では、100%、2年生では、96.6%となった。英語を使って自分の気持ちを表現できる児童が増えてきていることが分かる。

課題としては、相づちやつなぎ言葉、ジェスチャーなどを用いて、英語でコミュニケーションを図る楽しさをより味わえるように工夫することである。低学年のうちに、ノンバーバルな部分(アイコンタクトや動作など)についてしっかりと指導しておくことで、高学年の外国語の学習でも応用していきたい。

##### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

語学において重要なのは「リスニング力」を鍛えることである。第1学年から外国語活動の授業をとおして英語に慣れ親しんできた結果、本校の児童のリスニング力の向上につながっていることがテストの結果として現れている。昨年度、6年生を対象として行った「GTEC Junior」のテストにおいて、本校児童のリスニング力の平均スコアは86%であった。また、「小学校英語トライアル」のリスニング力の平均スコアも231点と高得点を出している。これらの結果から、第1学年から継続的に行っ

てきた外国語活動の効果があることがいえる。課題としては、「スピーキング力」の向上である。外国語の授業内で児童に行った口頭での質問調査から、英語を話すことに自信がない児童が多くいることが分かった。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

スピーキング力の向上のための改善策を3つ挙げる。

1つ目は、small talk（身近な話題について英語でやりとりする活動）などのやり取りを通して、互いの考えや気持ちなどを伝えあう力を育成するようにすること。

2つ目は、個人での発表やグループでの発表、パフォーマンステストを計画的に実施すること。

3つ目は、児童の興味・関心、他教科や学校行事などに関連付けた場面設定をした授業づくりをし、児童の内発的動機付けを高めること。

これらの3つの改善策を実施し、本校児童のスピーキング力の向上に努めていきたい。